

【ステキな関係】

今回は、56歳の主婦のさわやかな投書をご紹介します。隣家の増築工事中の大工さんと弟子との会話です。

「親方は声を荒げることなく丁寧に教えている。若い方も、『です・ます』言葉が崩れることなく、きちんと聞いている。やり取りから信頼関係があることが分かる。親方は人柄と共に確かな技術があって、ゆとりがあるから若い人を育てることも出来るのだろう。親方の言うことを素直に聞いてくれる若者。幸せな親方でもある。若い人も親方に恵まれている。素直に聞く人だから、いい技術者になるんだろうと、私は勝手に想像している。

『日がさすと蚊がいなくなる。蚊は日が嫌いなんだ』『そうですか』微笑ましい会話も聞こえてくる。人を育てるゆとりのないベテランが多く、仕事を覚えられない若手が多いと聞く。そんな中で良い光景を見せてもらっている。秋葉原で事件を起こした男のいた周辺では、考えられない世界だろう。」

爽やかな若者を育てたご両親に会ってみたいなーと思いますね。きっと親方のような方たちに違いありません。親だけでなく、周りの者がみな、優しい心で若い人たちを育てていく社会にしていかなければと思います。若い人たちは、私たち年配者の鏡だとつくづく思わされました。

【剣道のすすめ】

33歳で東京から札幌教会へ赴任しました。付属幼稚園がありました。幼稚園を卒業してしばらくは、男の子たちも日曜学校に来てくれます。しかし小学校3年生頃から、来なくなってしまいます。逞しい男の子を育てたい。お父さんたちと相談して、幼稚園のホールで剣道場を開きました。剣道連盟から立派な師範を2人派遣していただき、35歳の私も子供たちと一緒に稽古を始めました。

23年間に小学1年生から中学3年生までを631人預かりました。週二日の稽古を9年間皆勤した生徒が4人、1日



欠席が1人。他に8年間皆勤精勤者が7人もいました。殆どの生徒を初段、二段にして高校に送り出しました。

私は週3日早朝稽古にも出かけ、61歳で教士7段に到達しました。最高位から三番目です。63歳でシンガポールに移り、日本語教会の牧師になりました。自分の健康維持のために日本人小学校の道場で週2回の稽古を続けていましたら、私の回りにシンガポール人が集ってきて、高専や大学にも広まりました。学校の稽古3回を合わせると週5回250人ほどに教えたことになりましょうか。

日本に帰ってきて八段の居られる道場にあちこち出かけて、週3回は稽古を続けたいと頑張っています。六・七段でも強い人が大勢います。容赦なくびしびし打たれて、自分の弱さを思い知らされます。その上で八段の指導を受けることが不可欠です。矢張り優れた人から学ばなければ、進歩向上いたしません。

40年も牧師経験があるということで、何となく大事にされる年になってきました。ですから未熟さを絶えず自覚させられることは、謙遜さを身に着ける上でとても役に立ちます。心気力が充実した日々を送りながら、剣道を続けてきて本当によかったと、感謝しています。皆さんも如何ですか。先日90歳で三段になられた方がいらっしゃいます。偉いですね。